

憲法擁護
核兵器廃絶
狭山闘争勝利

■ 2013年 11.12月合併号 月1回発行 126号

■ 発行所：東京都港区芝浦3丁目2番22田町交通ビル
東京平和運動センター

■ 発行人：本橋 益男 TEL・FAX 03-5443-4110

東京平和運動センター

ニュース

NEWS



目	次
特定秘密保護法反対の取り組み	2
第50回憲法理念の実現をめざす沖縄大会	4
食とみどり水を守る全国集会	4
さようなら原発 1000万人署名	5
辺野古への基地建設を許さない！	5
狭山事件の再審を求める！	6
活動報告	7
今後の日程	7
常任幹事会報告	7

特定秘密保護法の

強行採決・成立を糾弾し、 廃止に向けて、地域から 闘いを進めよう

12月6日、安倍政権・自公両党は「特定秘密保護法案」を参議院本会議において強行可決しました。



国民の知る権利を奪い、全く無限定・恣意的に「秘密」指定し、その漏洩に罰則を科すという、稀代の悪法が、異例の短期審議の中で強行採決されるという事態は、安倍政権の憲法改悪と「戦争への道」に道筋をつける暴挙です。

東京平和運動センターは、平和フォーラムとともに、全国の仲間と衆参両院における審議に対し、連日の国会前行動を行いました。

参議院の山場の11月25・26日には北海道平和運動センターの仲間とともに、国会前座り込み行動を実施しました。26日には「さようなら原発署名提出行動」とともに、「特定秘密保護法」反対のデモ行進に参加しました。

石破自民党幹事長の「デモとテロは同質のものだ」という暴言に対する批判、学者文化人などが次々と反対声明を出す中、12月6日は朝から国会周辺に反対を訴える多数の人々が結

集しました。平和フォーラムも国会前で座り込みと、集会を繰り返し、夜間まで行動を続ける中、不当な強行採決が実施されました。週明けの各種世論調査で、国民の不安と否定が明らかとなっています。



世論調査の主な結果

特定秘密保護法への不安	感じる	70.8%
	感じない	22.3%
法律への賛否	賛成	24.9%
	反対	60.3%
政府・与党の姿勢	適切だ	25.1%
	適切でない	68.5%
法律を今後どうするべきか	このまま施行	9.4%
	修正する	54.1%
	廃止する	28.2%

※合計は100%にならない。
「政府・与党の姿勢」は「どちらかといえば」を含めた合計

共同通信社が8、9両日に実施した
全国緊急電話世論調査

「特定秘密の保護に関する法律」の

成立に抗議する

フォーラム平和・人権・環境
代表 福山真劫

12月6日、参議院国家安全保障特別委員会において強行採決された「特定秘密の保護に関する法律案」は、即日本会議にかけられ成立した。平和フォーラムは、この民主主義を否定し市民を愚弄する暴挙に、重大な決意をもって抗議する。

本法律は、次期通常国会にも提出されるとする「国家安全保障基本法」と対をなし、集団的自衛権の名の下に、自衛隊の戦争参加を可能にし、米国の世界覇権に協力するものである。第二次世界大戦を経験した多くの人間が、警鐘を鳴らしている。ジャーナリズムに関わる多数が反対し、国会周辺では連日多くの市民が反対の声を上げている。国連機関を含め海外からも懸念が示されている。福島市で強行された公聴会では、7人の公聴人全員が反対を表明した。しかし政治の場においては、これらの声は無視された。これが民主的手続きとは言えるのか。「特定秘密の保護に関する法律」は、その成立の過程からみても憲法の理念に反する。

秘密の範囲、取材の制限、秘密取扱者のプライバシー、漏洩への厳しい罰則、「知る権利」に対する多くの懸念は全く払拭されていない。それどころか懸念は深まるばかりである。憲兵と特高警察に怯え、物言えぬ戦前の社会が作られるとき「そうします」といった者はいない。「そうはならない」と聞きながら、「そうってしまった」時の悲劇は計り知れない。多くの人々がそのことを指摘している。憲法が、基本的人権として「知る権利」を規定するのは、それが民主主義を構成する重要な要素だからだ。そのことなくして民主主義は成立しない。「情報は国民の財産」である。政府・官僚に情報を隠蔽し廃棄する権限はない。

戦争の遂行を目的とした戦前の社会は、大本営の発表のみが事実とされ、連戦連勝の虚偽報道のみが続く中で、出征兵士の多くは白木の箱で帰還した。日本国内は空襲の嵐に襲われ、沖縄では住民を巻き込んだ凄惨な地上戦が、最後には原子爆弾が広島・長崎に落とされた。日本の戦争犠牲者は310万人とも言われている。アジア諸国の多くが日本の侵略戦争の犠牲となり、その数は1900万人とも言われる。

これらの犠牲の上に、日本は国民主権、平和主義、基本的人権の尊重を3大原則とする民主憲法を手に入れた。戦後68年、日本は侵略戦争の反省に立って憲法を守り続けてきた。侵略国家であった日本は、戦争をしないことで世界の信頼を醸成してきた。New York Timesは11月29日に「秘密保護法案によって日本は戦後の平和主義から離脱するのか」と主張している。これは、多くの国の偽らざる感想に違いない。戦後培ってきた日本の信頼を失いかねない事態である。

日本国憲法と民主主義を基本に、平和に徹してきた戦後社会が重大な危機に瀕している。平和フォーラムは、歴史に学ぶことなく、戦前・戦後を通じて国の名の下に失われた多くの「命」を踏みにじる安倍晋三内閣の姿勢を許すことなく、憲法に示された市民社会の権利を守るために全力で闘う。日本社会のみならず、全世界の平和勢力を糾合し、日本が決して再びアジアの脅威とならないために、全力で闘う。

日本国憲法は、「平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して、われらの安全と生存を保持しようと決意し」「平和を維持し、専制と隷従、圧迫と偏狭を地上から永遠に除去しようと努めてゐる国際社会において、名誉ある地位を占めたいと思ふ」としている。このことを、私たちは決して忘れてはならない。

2013年12月8日

2013年11月4日～6日 那覇市
沖縄から問う『平和、人権、いのち』－

核も基地も戦争もない世界を！

憲法理念の実現をめざす第50回大会

(護憲大会) 開催



憲法理念の実現に向けて全国でももっとも切実なとりくみを続けてきた沖縄県的那覇市の地で、「沖縄から問う『平和、人権、いのち』－核も基地も戦争もない世界を！憲法理念の実現をめざす第50回大会(護憲大会)」正式名称に、那覇市民会館大ホールをメイン会場として11月3日から5日までの日程で開催され、3日間で全国・沖縄ののべ2000人以上が参加しました。

今回の大会は、昨年末の総選挙の結果、第2次安倍内閣が誕生し、東アジア諸国との関係を悪化させ、偏狭なナショナリズムを煽り、軍事力増強や集団的自衛権の行使を是とし、憲法理念の破棄と平和国家の変更を露骨に意図しています。また、何を秘密するのかすら秘密にする特定秘密保護法の制定をもくろみ、戦前の物言えぬ社会の再生を狙う状況という、憲法施行66年の歴史で最大の危機を迎えているなかでの開催となりました。こうした状況を打開し、50回の節目の大会を、憲法のもっとも重要な基調を守り、「命の尊厳」を基本に決意を新たにしたりくみをすすめるための大会でした。

開会総会で、福山実行委員長は、安倍政権がもくろむ集団的自衛権行使容認について「集団的自衛権行使合憲化とは自衛隊が米国の指令の下で戦うこと。実質的に憲法9条を投げ捨てることになる」と強調。その上で、安倍首相は

国民投票で過半数の賛成を要する明文改憲ではなく、憲法解釈変更と国家安全保障基本法案制定などを通じてこれを強行しようとしているとし、「平和や憲法9条を守る勢力が結集しなければ絶対に勝てない。自衛隊を米軍の弾よけにさせない、辺野古に米軍の基地を造らせない、格差社会、原発再稼働を許さないよう、何をすべきか見定めよう」とあいさつ。

琉球大学法科大学院教授の高良県実行委員長は、大会が掲げる「平和、人権、いのち」に触れ「まさに沖縄が求めているもの。この3つを合わせるとたった一言、平和的生存権になる。これを求めて私たちは平和憲法の下に復帰した」と述べた上で、42年間を経て「憲法を動かさせない法律」ばかりができる中、「何のために復帰したのか分からない出来事がたくさん起きている。沖縄は憲法の理念から最も遠いところにあるが、弁護士を目指す学生たちに理念を大事にすることを問うてきた。護憲大会が沖縄で開催されることに感謝したい」とし、「憲法を生かす、よみがえらせる大会にしよう」と呼びかけました。

2013年11月29～30日仙台市
食とみどり、水を守る全国集会開催

食の安全・安心や農林業の再生、森林や水などの環境保全などの政策と運動について討議するために、「食とみどり、水を守る全国集会」は、今年45回目を迎え、11月29日～30日に仙台市内で開催され、全都道府県から850人が参加しました。

2011年3月11日に発生した東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県などの現状や、今後の復旧・復興に向けた取り組み、隣県の福島原発事故の問題や及ぼす影響など、現地の関係者を含めて多面的な討議が行われました。また、山場を迎えた環太平洋経済連携協定(TPP)に対しても、農業をはじめ食や生活全般に大きな影響を与えることから、国民合意のないTPPの妥結に強く反対することも確認されました。

さようなら原発 1000 万人署名

8, 378, 701 筆

「特定秘密保護法」が衆議院で強行採決された 11 月 26 日に、「さようなら原発一千万署名市民の会」呼び掛け人の大江健三郎さんや鎌田慧さん、落合恵子さんなどが、これまでに集まった 837 万余名の署名の一部を、衆・参院副議長や内閣に届けました。また、夜には千代田区「日比谷野外音楽堂」で集会が開かれ、提出の報告と 1000 万人署名を達成して脱原発社会の実現をめざそうと確認しあいました。

1000 万人署名運動は、2011 年 3 月 11 日の東京電力福島原発事故発生を受けて、同年 6 月から始まり、2012 年 6 月には第一次集約分として 751 万人分を提出。さらに、その後も市民団体を中心に署名が続けられ、11 月 20 日現在、8, 378, 701 筆を集約しました。

26 日の午後、参議院議員会館で院内集会を開いて運動経過報告や今後の取り組みなどを確認。その後、国会内で参議院の輿石東副議長、衆議院の赤松広隆副議長に署名を直接手渡し、大江さんや賛同人の佐高信さんなどが、「原発廃止に向けて政治のカジを切り、核エネルギー政策からの大転換を」と、強く訴えました。しかし、安倍首相あての署名は、去年は官房長官が直接受け取ったにも関わらず、今回は官邸での署名受け取りを拒否されました。安倍政権の原発推進の姿勢に、官邸前で厳しく抗議を行い、内閣府に署名を提出しました。

18 時 30 分から日比谷野外音楽堂で開かれた集会には、1300 人の市民や労働組合代表などが参加。女優の木内みどりさんの司会で進められ、最初に鎌田慧さん（ルポライター）が署名提出の報告を行い、「秘密保護法強行採決の日と重なり、安倍内閣の姿勢が鮮明になった。新しい社会を作るため、これからがんばろう」と呼び掛けました。

福島からの訴えを、原発近くに住み、現在は会津に避難している千葉親子さん（脱原発福島

県民会議）が行い、「今も 15 万人が避難し、不安な生活を強いられている。誰も責任を取ろうとしない。子どもを守れないで、秘密保護法で何を守ろうと言うのか」と、切々と訴えました。



集会後、参加者は思い思いのプラカードや横断幕を手にデモ行進に出発。東京電力本店前では抗議の声をあげ、銀座周辺では「原発に秘密はいらない！」などとシュプレヒコールを繰り返しました。

2013 年 12 月 4 日 全水道会館
「辺野古への基地建設を許さない！
オスプレイの沖縄配備撤回！
12.4 集会」開催

12 月 4 日、東京・全水道会館を会場に、「辺野古への基地建設を許さない！オスプレイの沖縄配備撤回！12.4 集会」が開催され、230 人が参加しました。集会では沖縄平和運動センター議長の山城博治さんが、公約を反故にした



自民党の沖縄県連について、「政府は、今度は知事を陥落させようとしている。秘密保護法、TPP、安倍のや

っている政治に怒り心頭。いま声をあげなければ」と力強く訴えました。

狭山東京実行委員会

狭山事件の再審を求める東京集会

2014年 2月25日開催

台東区民会館

狭山東京実行委員会は11月22日幹事会で、12月19日の総会開催と当面の行動などについて確認しました。

石川一雄さんの不当逮捕から50年を迎えた本年、三者協議も16回を数え、石川さんの冤罪は一層明確になっており、即時再審決定と無罪判決が求められています。年越しは確実な情勢ですが、裁判長あて要請はがきの取り組み、「SAYAMA」上映運動、各地域ごとの集会開催を積み上げていくことを確認しました。

すでに各地（荒川・墨田・練馬など）で上映会が開催され多くの人々が参加してきています。

来年、2月25日には台東区民会館で狭山事件の再審を求める東京集会を開催します。

署名運動を取組もう

宛先

100-8933

東京都千代田区霞が関Ⅰ-1-4

東京高等裁判所第四刑事部

裁判長 河合健司 様

お手元に、事務局で作成したはがきがない方は、右記を参考に官製はがき等でご協力ください。

映画 観て楽しむ、語って楽しむ
音楽で楽しむ

SAYAMA

ツキイチ劇場

第1部 ドキュメンタリー映画「SAYAMA」上映
第2部 **スペシャルゲスト トーク／ライブ**
ホスト **金聖雄監督**

2014年 毎ツキ第イチ土曜日
2月11日
15時～19時 全10回
東京水道橋 在日韓国YMCA スペースY
入場料:1500円(第4回のみ2000円)
全10回通し券:5000円

「この映画には、愛すべき人」がいる。
それがいいんです。
——金聖雄監督 加藤正行

「私には無実です」
30年、人権を叫ぶレフェルを夢見ながら
泣き、笑い、怒り、日々を。誰か、と生き抜く夫婦の物語！

SAYAMA
みえない手錠をはずすまで

監督 金聖雄 撮影 池田健巳
音楽 石川賢作 小室等 プロデューサー 陣内康行

毎月第一土曜日に上映会が開催されます

～狭山事件の再審開始決定を～

事実調べをして下さい！

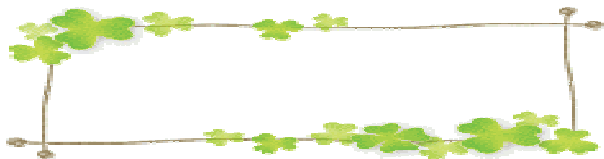
検察に証拠開示を命令して下さい！

河合裁判長、今こそ真実を明らかにしてください。

石川一雄の無実は明白です。実に50年も無実を訴え続け、もう75歳です。

これ以上「見えない手錠」につないでおくことは許されません。

私たちは、一日も早い再審開始決定を求めます。



住所 _____
名前 _____

取扱い団体 (_____)

活動日誌

- 11.3～5 憲法理念の実現をめざす第50回大会
(那覇市)
- 11.09 合成洗剤追放全国連絡会総会・講演会
(13:00～全水道会館)
- 11.09 辺野古の埋め立てを止めよう 11.9 集会
(14:00～千駄ヶ谷区民会館)
- 11.21 特定秘密保護法反対集会〈日比谷野音〉
- 11.22 東京平和運動センター常任幹事会
- 11.22 狭山東京実行委員会
- 11.26 特定秘密法反対国会前集会
- 11.26 さようなら原発 1000 万人署名提出行動
(国会内集会・日比谷野音)
- 11.29～30 第45回食とみどり、水を守る全国
集会(仙台市)
- 12.1～2 平和センター関東ブロック総会
- 12.04 辺野古への基地建設を許さない！オス
プレイの沖縄配備撤回集会(全水道会
館)
- 12.04～06 特定秘密法反対国会前座り込み集
会
- 12.07 もんじゅを廃炉へ！全国集会
(福井・敦賀市)
- 12.08 TPP 交渉の拙速な合意に反対する集会
(日比谷野音)
- 12.10 不戦を誓う三多摩集会(いずみホール)

今後の日程

- 12.15 朝鮮学園を支援する会全国交流会
(13:30～東京朝鮮中高級学校多目的
ホール)
- 12.19 狭山東京実行委員会総会(18:00
田町交通ビル)
- 2014 年
- 01.25 「国連・人権勧告の実現を！」集会とデ
モ(13:00～代々木公園野外ステージ)
- 02.11 「建国記念の日」を考える集会(13:30～
全水道会館)
- 02.25 狭山事件の再審を求める東京集会
(18:30 台東区民会館)
- 03.08 福島県民集会(郡山・いわき・福島)
- 03.15 さようなら原発集会(日比谷野音)

東京平和運動センター第62回常任幹事会 報告

11月22日(水) 東交会議室

I. 報告事項

- ① 平和フォーラム都道府県・中央団体責
任者会議
- ② 狭山東京実行委員会
- ③ その他

II 協議事項

1 常任幹事の交代

自治労東京

新任 桐田 達也

2 さようなら原発アクションについて

当面する諸集会への積極的参加を確認

11.26 署名提出行動

03.08 福島集会

03.15 東京日比谷野音集会

3 特定秘密保護法反対の取り組み

当面する諸集会への積極的参加を確認

11.26 国会前

11.4～6 の山場の取り組み

4 辺野古基地建設反対の取り組み

当面する諸行動への積極的参加を確認

12.04 辺野古への基地建設を許さ
ない！オスプレイの沖縄配
備撤回集会(全水道会館)

01.12～01.19 名護市長選挙

5 狭山事件の再審を求める闘いについて

当日、前段で開催された狭山東京実行委
員会の報告を受け、以下の取り組みを確認

＊ 各地での映画上映会への参加

＊ 裁判長あて要請はがきの継続取組

＊ 12.19 狭山東京実行委員会総会

＊ 02.18 駅頭宣伝〈池袋〉

＊ 02.25 狭山事件の再審を求める東京
集会

6 次回幹事会

2月18日(火)